

現代ベトナム・ジャーナル考 —地域研究との関連で—

寺本 実

本稿でジャーナルという場合、ベトナムで発行される、学術誌およびベトナムの理解に有用な一般雑誌を指す。また、コア・ジャーナルについては、そうしたジャーナルのなかでも、ベトナムに関する調査研究を行う者が自身の関心について学ぶうえで、特に重視するジャーナルを指す。

本稿の構成は以下のとおりである。最初にベトナムにおけるジャーナルの発行状況の特徴について述べ、次にベトナム地域研究理解におけるその位置付けについて考察する。そして、現在、当研究所図書館で開架されている、いくつかのジャーナルについて紹介し、最後に若干の意見を記す。

●発行状況の特徴

ベトナムの識字率は早い段階から比較的高く(表1参照)、ベト

ナムの街では新聞や雑誌を手にする人々の姿をよく目にする。ただし、都市部と農村部(中央と地方という含意を含む)の情報格差は歴然としている。ベトナムでは都市部に約三割、農村部に約七割の人が住むが、書籍も含めて、新聞・雑誌の普及の度合いは、都市部の方が圧倒的に高いというのが実情である。全国の末端の行政レベルに対する官報(Cong Bao、表2参照)配布が決められたのは、一九九八年三月のことであった。初めての統一国会の場で正式に南北ベトナムが統一されたのは、一九七六年七月二日のことである。その後二二年ほどがたち、初めて国家体系の末端レベルに対して、中央で作成された官報が届けられることになったのである。統治のコアのひとつとなる官報についてそうした状況なのであるから、一般

のジャーナルについては、ベトナムに関心を持つ外国人の方が、ベトナムの地方、農村に住む人たちよりも、むしろ手にする機会が多いのではないか、アクセスもより容易なのではないか、というのが筆者の率直な印象である。大半のベトナム人にとってみれば、ごく限られた者がアクセスして読む特殊な媒体というのが、ベトナムにおけるジャーナルの位置付けではないかと考えられる

しかし、ベトナム全国への均等な普及という点では限界があるものの、大学が発行するジャーナルを含め、その種類は、相当多いと考えられる。

ベトナムの人文社会科学研究の中心的な存在といえば、ベトナム社会科学学院(Vien Khoa Hoc Xa Hoi Viet Nam)である。同機関のHP (<http://www.vass.gov.vn>)

によれば(二〇一一年一月にアクセス)、同院は傘下に三〇の研究所を抱え、三五のジャーナルを発行している(表3参照)。

他方、ベトナムにおける理科系研究機関の中心機関はベトナム科学・技術院(Vien Khoa Hoc va Cong Nghe Viet Nam) である。同機関のHP (<http://vstac.vn>)によれば(二〇一一年一月にアクセス)、同院の傘下には二五の国家級研究所が存在する。そのうちのひとつである数学研究所(Vien Toan Hoc)の発行するVietnam Journal of Mathematicsの

表1 ベトナムと近隣諸国における15歳以上の識字率 (%)

	2000	2005	2006	2007	2008	2009
ブルネイ	95.3
カンボジア	77.6	..
インドネシア	92.0	..	92.2	..
ラオス	69.6	72.7
マレーシア	88.7	92.5
ミャンマー	89.9	92.0
フィリピン	92.6	95.4	..
シンガポール	92.5	94.7
タイ	92.6	93.5
ベトナム	90.2	92.8
中国	90.9	94.0

(出所) International Human Development Indicators-UNDP (<http://hdrstats.undp.org/en/indicators/101406.html>, 2011年12月にアクセス)に基づき、筆者作成。

(注) 日常生活上の短く単純な文書の読み書きができることが判断軸とされている。ASEAN諸国については、アルファベット順に記載。また、当該国の特徴のひとつを表すものであり、優劣を示すものではない。

表3 ベトナム社会科学院傘下の機関が発行するジャーナル

Dan Toc Hoc (民族学)
Chau My Ngay Nay (今日の米州)
Han Nom (漢 喃)
Khao Co Hoc (考古学)
Khoa Hoc Xa hoi Viet Nam (ベトナムの社会科学)
Khoa Hoc Xa Hoi Mien Trung (中部の社会科学)
Khoa Hoc Xa Hoi (TP. Ho Chi Minh) (社会科学) (ホーチミン市)
Nha Nuoc va Phap Luat (国家と法律)
Nghien Cuu Chau Au (欧州研究)
Nghien Cuu Chau Phi va Trung Dong (アフリカ・中東研究)
Nghien Cuu Con nguoi (人類研究)
Nghien Cuu Dong Bac A (東北アジア研究)
Nghien Cuu Dong Nam A (東南アジア研究)
Nghien Cuu Gia dinh va Gioi (家庭・ジェンダー研究)
Nghien Cuu Lich Su (歴史研究)
Nghien Cuu Kinh Te (経済研究)
Nghien Cuu Phat Trien Ben Vung (持続可能な発展研究)
Nghien Cuu Ton Giao (宗教研究)
Nghien Cuu Trung Quoc (中国研究)
Ngon Ngu (言語)
Nhung Van De Kinh Te va Chinh Tri The gioi (世界の経済・政治問題)
Tam ly Hoc (心理学)
Tu Dien Hoc va Bach Khoa Thu Viet Nam (辞書学と百科事典)
Thong Tin Khoa Hoc Xa Hoi (社会科学通信)
Triet Hoc (哲学)
Van Hoa Dan Gian (民間文化)
Van Hoc (文学)
Xa Hoi Hoc (社会学)
Vietnam Social Sciences
Vietnam Socio-Economic Development
Vietnam Economic Review
Anthropology Review
Chinese Studies Review
European Studies Review
Philosophy
The Journal of Historical Studies

(出所) ベトナム社会科学院HP (<http://www.vass.gov.vn>) に基づき、筆者作成(2011年12月にアクセス)。
 (注) 表記の仕方は資料に即して記している。網掛け部分はアジア図書館に開架されているジャーナル。Vietnam Socio-Economic DevelopmentはVietnam's Socio-Economic Developmentと同じものと推測される。

表2 アジ研図書館で開架中のベトナムのジャーナル

Cong Bao (官報)
Dai Doan Ket (大団結)
Kinh Te va Du Bao (経済と予報)
Nghien Cuu Dong Nam A (東南アジア研究)
Nghien Cuu Kinh Te (経済研究)
Nha Nuoc va Phap Luat (国家と法律)
Tap Chi Cong San (共産誌)
Tap Chi Tai Chinh (財政誌)
Thoi Bao Kinh Te Viet Nam (ベトナム経済時報)
Xa Hoi Hoc (社会学)
Vietnam Economic Review
Vietnam Investment Review
Vietnam Social Sciences
Vietnam's Socio-Economic Development

(出所) 筆者作成。
 (注) 2011年12月現在。

また、計画・投資省が中央経済管理研究所(CIEM)を持つように、公的な機関が、自身の活動する部門における知見を広げ、政策・方針の作成、決定に資するため、自前の研究部門を持つ

野、志向、好みによって、当該人物にとつてのコア・ジャーナルは変わる。取り組みの継続の中から、自身のコア・ジャーナルを見つけ出していくことが大切なのではないか、というのが筆者の基本的な考えである。そのうえで、以下の諸点について指摘したい。

ベトナムのジャーナルは、ベトナムに関する調査研究を行う者それぞれの関心分野における先行研

編集委員の一人には、フィールズ賞を受賞したゴー・バオ・チャウ・シカゴ大学教授も名を連ねている。

また、計画・投資省が中央経済管理研究所(CIEM)を持つように、公的な機関が、自身の活動する部門における知見を広げ、政策・方針の作成、決定に資するため、自前の研究部門を持つ

●地域研究上の位置づけ

調査研究を実施する者の関心分野、志向、好みによって、当該人物にとつてのコア・ジャーナルは変わる。取り組みの継続の中から、自身のコア・ジャーナルを見つけ出していくことが大切なのではないか、というのが筆者の基本的な考えである。そのうえで、以下の諸点について指摘したい。

究、関心のあり方、外国人が実施することがあまり容易でない調査とその結果について学ぶ貴重な材料となる。表3では、ベトナム社会科学院傘下の各研究機関が発行するジャーナルを列挙した。これらの雑誌に掲載される諸論者は、当該分野におけるベトナムの研究水準を示すもののひとつである。また、いわゆるジャーナルという形態をとらずとも、ひとつの新聞記事が貴重な分析資料となることもある。そうした記事の掲載頻度が多いと自身が判断する新聞についても、当該人物にとつての「コア・ジャーナル」と位置付け得ると考えられる。

次に、当研究所図書館の開架ジャーナルのうち、いくつか紹介しておきたい(表2参照)。

先にも記したCong Baoは、読みやすい冊子体にまとめられており、ベトナム政府の文書を網羅的に掲載した重要資料である。

Thoi Bao Kinh Te Viet Namは、経済問題だけでなく、政治、社会、外交を含めて、時事的な問題を比較的分かりやすく、断片的というよりも、ある程度ポイントをつかんでまとめた論者が多く所収されている。体裁も多色刷りで整っている。

最後に、Tap Chi Cong Sanは、ベトナム共産党中央の政治理論誌である。政治の領域は無限定である。現職のグエン・フー・チョン党書記長は、かつて同誌の編集長を務めていた。

●おわりに

限られた筆者の経験に基づき、ベトナムにおけるジャーナルの発行状況の特質、地域研究上のジャーナルの位置づけ、当研究所図書館で開架されている、いくつかのジャーナルについて見てきた。

自身の関心の所在に関係なく、仕事上の都合でジャーナルを読まなければならないことも多い。時期、年代によって、ジャーナルの充実度が変化することもある。調査研究を行う者の関心も変わり得る。また、実際に手にし得るジャーナル数には限りがある。

こうしたことから、ベトナムに関わる調査研究者にとつてのコア・ジャーナルとの出会いは、少し大げさにいえば、さまざまな遍歴を経て得られる、ひとつの「成果」と位置づけることができるのではないかと思われる。

(つらもと むのる／アジア経済研究所 東南アジアII研究グループ)